花楓劔本地

戸隠山鬼狀
退治物語

完

帝國圖書
へ 13
1365

中山堂

序

時勢といそぐ歌ふ物より。春秋にそぐ
さ持ち三家の根ねと五巻より
書乃人。仮名好名みよ抜人。昔紅言
乃紫丸戸源丸二振の名和芸由来や
て。さ持ち三平の惟義子孫乃先祖丸
芝居物語とれたり。むかしく近松
正安剣本地といふる説曲を著述を

おのひ出ぬ[illegible]ちこのおもゝげ
を後の代りとなるを梢林は夢より
覚ゆゝと勧善懲悪ちゝ[illegible]なれも
あゝねゝ母

寛延二つ
巳の黄湯

作者　其笑　瑞笑

花楓錦本地

目録

第一　子持ゆく湯を戸渡れ鬼神
美男の詩をたるゞをゆひのこ
たるざんぎりうゞを絡師はさ出る
人の墨いろ筆れ命を恋のかゝき

極彩色
花楓里

きゝ巻

第二　惟義の子孫は町人に成て安堵

刀の身よりわけかなへ殺明女髪

をきれども神ぞ鬼のお菊つゞきれ

第三　鬼の涙ほとゝかなつて雨を

第三　奥様の嫉妬ゆゑにかんぐ

身をそゝくやり茶の湯なる合

笑ひ打ち者と菊ぐるみしも中よ

をるが姉ぐのりみり胸をさゝる桃笑

一　みの助を戸源山に鬼神

君子の天下を治る事。春風春雨の席物とうあるよ

ゆくりと。司馬温公のたゞ冥ものをや。是れ乃中裏

号る武公冥海を学問ありしより源家は武威冥奥として。

政務をまもるべきの侍。是昭院殿義政公の光で剛り

充満と。義政公家臣の石小名。わしば執事を始め大名小名

烏帽子をうるれ平伏とて。てに下絵ふ乃侍人ぞ川ぶ考

が浴を拾市川地蔵人道市九郎をとゝの。浴のゝれかゝてまを

それぞ悔ふん考りにより。去年八月を来て。ゝ。ゝ後

安宮のたりなしあまり乳づゝく。ゆりやりて安宮を

ど。ゝ。ゝにくのが迄とゝよ知る人あそれば思まゝ。実者と

うめびなると。俤ぐゝとよをしが。義経をば。ゆく末思惟まして。
かるかゝくゆゞしかり。信濃戸隠なる畏神をゝてさゝぐの懐をと
ゞめとなすべし。その方ゞ猛男。沼袋つゝ。育にきこゆる勇者れ畏神
近信の詩より。ゆんとぞや。発揮をとりつくたるゝ。その西暦二千
九月上旬のことなり。そは。ゆにめる。宗教家つゞ。ゆく。沼袋つ
事。九死一生。大病にかゝり。上京まりあゝざるとの仰。いとり
京ゆたつその時。沼袋つゞさ。一のゞる書翰とり。て。親地をふ
乃ゝゞ。この作。京ゆたつ。こ。ゆ。りその出仏をゆそ。ゆにありと
こゆ紙入より。ゆかして。地をよ。ひ。ひ。ひ。ゆ。沼袋つ。ゆ。ゆ年
那波信の。ゆ。一ゆよ。ゆたゝゆ。地ゆ。ゆ。ゆ。

いぶつーさ
るでこざる
あれ見れ　だそもて
りぶいめきらーり
ひうろてい
ぐんまもう
これりちが
子孫でこざ
まも
ちんぬ沢
抜きう
ぬかでこざうま
そのつるぎ
こもへ
白鳥は
ぐんぶいね
おそろーいぐ

及へさりさとれば悔いるとも後へ行ふなくゆりのがるとぞいひ
なくつつとくてぞくるはまさきんさてくむ行んの仕合と。
志のそなたい業のあるより あらしめまきさのごくなり。義好云
作おさるいぞとを戸々に山への球よといそくべし。志のあるその
人をめんぐ延引さり。中村七郎戸といるるる者。ろるるに遠せ一安へ
あれぞぞそ紀ちにべしと作み海ろせわるしさるのろふ作ろう
今見ぞぞまへふかしこまるに志のろもむ紀作ろさ。作ぞ
志みうつろ戸ーと。ぞ云りとがくそ乃人ある中村七郎
とるつい父よりめづりうみる員男のきこへたく。教育際の絵
高縄ぞ長ふ志かしーはくちんでやるるぞそれるる大歌なり
ろも志今紙的ようけくはるくるが猪利をはんとの宮そもいる
ぐきに。器作をおひのはひやがりのなりとぞろ遠のろ

きりくそれ志のちみひくくる大谷廣信とるよ絵師めざりくひ。
器と宮くあそ作くあくぞそれ志地法陽の氣とさーていよ器作を
絵ろもかくまぞぞにもとくまどといくぞ。ゆさくくぞ戸ぐてふ作ぐ
解のまぞ人もゆかぐ。源家の志祖教長氏丹弼志に山れ器作
をたくげ。志と表みのと絵ろ。
いるたるのうまくぐさん。自るの武男くくんとやりれてを及ぐねる。
百一貫尾よく器作近信ありとそも。これ若志の作威勢とあるべ。
海近ある志とのゆそれをくふくくに。ふく更を絵るべーとぞ七郎戸と
とひめくる古系のけの世い義屋ある人丹屋ぐくびぐけるんどを。
七郎戸とふくとゆ人あのまぐ宮ゆ世ざると遣信ぬさーはくぞと
幸に七郎戸とを方へつつ。ぞ又器作ふのふく金とけなくく。
尼為の作ぐかくそをとる道理とよろこびさいまぐれぞ七郎戸

みつことをこゝにすゝめ。さぶらひ屋などの招引あづかる事にあらざ
るをとゝのへ。おそれすゝめ〳〵。大江の小作も姿絵とうけ給はる。
彩屋ふみく田村丸のわらぼうし。女のやとゝ人とゝ作ふれど。
戸かくゝ。ふとてもさゝめて面紗の袖意のゝ。ひかるゝ所なり。源氏
こゝろ性をへ出くゝ人をケやまんはめてゞゝといはれども。ようくゝみ
めつらしがゝ。ゝこの品作とようゝくゝの奇術とおゞゝ人者とゝ
感をおとしよう。ゝこれで味方作のみ語りつまゝ。ゝ性をゝ
ゝゝゝてのゝ絵ゝゝりあてたのゝくゝひゝゝゝたとの作ひ。
面絵ゝのゝ。ゝ色ゝその無て作ゝ所ゝ面人おゝて方の役人ゝゝくゝ
家町樣の小絵のゝのゝ。瀬川やのゝくゝとゝた女ゝゝるゝゝ
出無て作品のゝゝゝゝゝゝ。ゝ出ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

金銀はかなる物をふまへて、ナ宮ふる男のまとりそばで、さと御門の
菊三郎と名にもぞ所人の後あなかなる
せーる。まれのわくさ風にもかゝぬ雨降あてがらびわくせびはあ
けくぐ。あまなつとんとうけ。御門屋のきくとへその方なかう。
あそれをのりんびゝ市兵衛といふかゝ
まい民治兵衛三郎とゆ法あるゆ人へなりがおそとゆされく
より所位のなーひゝさーー出あ指別御門をあ名ふいてーー。
菊三郎をそでありまいるう。まつ稼ぐゆされまーさ。就今そ
のくのさく治人なしゞも。先組い年の姫成とて信ゆとゞ山
の異形と退治せーまゆ孫なしゝ。今ゆあそもあれいびくすも異形
なゞくいのゆーさうもゆゝゞ一番にうけゆうひ先組ゆうつさ
ゆりし御門兄とうつかの威光とゆくゆたくと退治しゝ治てさ
さうゆ相よせんと異形ゆ力と大切ゆ相ゆてさゆーとゆうて福寿ゆ
ゆてゆさゆーうゞも先組代くのゆは人あて異形とゆうゆ
ゆゞてゆさうーゆゆゆゆゆ。ゆゆゆ異形退治の対ゆとゆ
ゆ殿の兄くさのゆゆゆゆゆ

たのふかぐさなくかつりそるとこの先祖を富士のたかとよばれ人
なれど異説退治もあるべきなれども人のうわさ笑止
なるものとつたへかくさるべきとこれなきまぬねがわるしとよりて
而あへさりなぐ。おぐ人あるてかりとびたくそびたくびのうりてかの將
蒙ふたへ仕出されたるさるに相模ひとてまるとうつてドせの悪道
ウーこけ行ひつさる仕義の子孫ーてその時れかとあるとのいさ
その力を見るべしとの古面白ーこありてさーられべいて人さを
ひ平のこれからかりのうの組とりてふくちゆ白川の廣文と
つつのより相先鋒仕へさーと。戸浜凡と名付て源家みたてさるる
名組。弓民公を上つく組敬とをしーのよ。古年いおよりこの
名組行ものたちまびぬとを取くゆさ方ちまびよくそのみれ
時。先の相模と見ばびへるたびカみびんもちびつと。思まへのうりさ

分なりと。信州廣信ゆ仕付ーれ。柄とそるーー中ゆと人名へ。弥
と張おさーーなりさてのいびが彩みたてさりて先る方と一対の
さーぞへのおかたまぞれなーー。そとあ松とるーーへこれゆらま孫と
よたようさびひるーー。ちれども。ぴさびの対よへそれみひへーー中村
七郎といふる武士ゆ人とーー中ゆと人名へ。弥
戸浜凡の表より町ーて夷べーー。瀬川やさくへ伊勢三郎と武士
ゆ仕さてーーーーより三ケ人名ぞへ勇ーそれとも名さて。極とて名
の武家にとりさてーーんと仕おされたぞ中村七郎ぞーるるあーー女
ーーんぞと猪頭とあーーちんゆ。とちげるくへさーへ人ども。いーまと
うーーあーも。おこの仕ふちさーがゆ。ぞ義なれべーーにもーーーー

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あるよ芳人のとかりよ世界新家よりのもとといふもあれど屋敷の
うへへぐ始めぬやしきりけ婦書より名ぬりといふた喜とけく
そこちこの松み鍋釜をまつくいふいそねまでみくぴちげのぬれ
ありとさくしかどあみかりふるあへかるべ。中村七郎助より
されへさの川七松さらかるりてぴちびちるみくぬくうりたむうて
因尼の瀬川屋のかくくといふ女ぬるべくそのみ菊ちとてナにに
かるうう元とぞみしを寄くおけいくうとせ松あげその瀬川屋乃
かくくといふいきくかすびーうはぬそーのまあかる七郎ぬ名ぬのべ
でも名元でもぬやといふねおよたちまうの因尼より名ぬ。
猫みうのとらふがあさの四あへ一さもまちぐふわとまね猫もあれども。
行でものぐねかこに因尼とふあともかとぬ行るひねどれへをまに
あるのの。その女も女じゃ人のかとこ二あふさひけんぬぐづのりと

で一ぬりをかあのこぐ分へ行をとぐけもみるのす。ちるのの寄ぬ
寄ーうぬんみくはるふかこんとぬてふちーうれぬ名ぬも
ぬれぐくうぐーぬうふのまんきめてぬう松そへくぬ風のがるる松ぬを
すむるとオ七松ぬそてあひぬ名とくこと七郎ーぬ名り絵りなれて
松みをお寄なぬれてのうこにぬかくーもかてたれとうふーうこれ
寄く成りへ金布めくあとやぬれのあーまーぬのうこたくいる松
のすでもかこりのお松寄とあれんぬせひにかるぬ松とあびれる。
ぐそんせびるふやうーてのる西尼のお絵りとあいくにけくて。
中村七郎助ぬ名のいぬかひぬとに絵ふれる寄世かこ寄ぬ
名ぬ。家老坂東表尼。西蘭字とトされ　中村十郎を始め一家中
ぬぬぐんうめひのーあれつむる名ぬ七郎助表尼ぬるるうぬ。ぬぬ
鬼神さんぐと絵寄ーれ。ぬふ。ありひうびいみ（の寄のこれのうれ

お孫様はいや第てとゝのいはぬ親おやくとゝあさてひぜひ
ぜひてとて行ぐいしのべぷのおとてゝいへそれがにひとひぷのうち
ゝいの第ゝ第ゝ親さーそひぷぼもあてもぐ〳〵いてゝ
とのゝぜんげーやゝけふゝとても時のぜとゝ抱へそゝりぐゝ
りーや女ゝゝんぐよおんれをれくゝ名みをにおーるべーとゝ
きゝゝさゝくとまゝゝひておくゝかゝ十を一間の間ゝりさーのぐれぐゝく
ゝゝゝ

そこくいあまりそこのこぬいろぬぎのせいかとくこを腹の弟者よ
ありこをつうひするすかこれ。姉ぴこびのうんてこをこと小人数をもべ
いるを。異作にもせよ人めもせよ。対こるにまるのつこをこ又を供のん
六五郎をのこらこて百人ぞこりりはまぐこをこの絵ん和れ絵
みもそるーゆうこそこぐーこめんいあ家むこくーんるもも。
こを実のやこをここてもいこめくく肩ふこをこよせあのく近所し
こうこうそれよりかくくいまでぐかく方かナ出て七郎んのむるぐーれて
そてふうよてそのは家といひあくせびこびを変ればこくゆくも
こるをこがそかナこをもかんこのつよかくこ母をこうく
ヲでんケしうりん箱目ここ人の姉ぐんも。世ふこりけいせいり
めくこれーとふこいひのこてこかーこるぴせこぐのあよ
いうこをこらあゆぐこりけるいすはこぐくも実こせいとれた。

ぞんそび。七れをこひぜんよりいうこをこ中ますんこ安ん
こりもうこあの行ふ作ーれて行くもきのどくに変ものそれよ
はこれのねーひーどこうまこ姉のあんやどに行ーこるぐ
でさんべ。新やこのこありこーをお花にりはまこらしこ
ぞーこ。こうんどそれかこくくとゆんこうの中あそのすかせこ
までもこここ。ぐこりけでここんびこいんあ中村新みこ花れかか
こらあよはけどそんヘ七郎命金ぐんべいはまもこ行藤をあーこ元。
おく方もヲんこの中入こ行こけこくこ義こそれこるこへここて
待ーこる。

一之巻抜

○世のよろこ[illegible]
[illegible]略へ書のうち[illegible]
武文[illegible]の中[illegible]

義貞艶軍配　　全部五冊

母と母の[illegible]
和睦の目出さ[illegible]

絵本福福壽　　全部三冊

右の福く[illegible]
狂奇抜の[illegible]
[illegible]二色[illegible]正月[illegible]

武之巻

花楓劔本地

用孫

賀一　化があ[illegible]れて出く[illegible]る尾とが伏
芳門が孫ぐり[illegible]を菊屋[illegible]女郎
乃身[illegible]と七[illegible]きく[illegible]や蠟燭乃
新[illegible]つ[illegible]と色の[illegible]百[illegible]拾両

上 壓三百 井上仙里

第二　小判の耳をそぎ取りて人見出して切腹を申付る事

仕ぞこるひ〜切る酒屋の茶うけ
場のなれこぎに出来破れ紙を洗人
第三　異国樋のふてりが用法
あけていたるまね立ち帰りうるづき
ひでんけ切ねと茶の場をちらと
きく屋みとをとぐるお十がとろめい

一　化物あるを化て出ずく朱の尾どり狐

天合の友義合は友あり義合の友とは親しき仲なり。
朋友は仲むつまじきなり。たがひに義を重んじ
聞うとは人交はりなるに。天合の友とは夫婦なるに
是天の合ちうる友なり。結婚は夫婦なり。
さて中村七郎兵衛中村彦五郎と云人ありとかいたり。
今の異説近江の国の物語に載てありうれば。
ゆうりうるぶ武士の人柄とも礼義あつく。妻小奥へ入る。
うつて行義へ入る。七郎出ひずあれへと奥へいざるへ
如ひそれる者よりかたぐこと是ようとうみ彼をつへ
ひうるくゆずつあまて武士もおれゆにくおあらるあるる。

うてくく為ると稽古をのぐさてうとりく稽古をの
いつのまれ性質のよ様めてそれからそれから異様延治のとれ乃
刀をあかせ一世もそれいしかとりつくびよ〳〵〳〵度とそれ
如あくくと中ん〳〵稽古のよう一方のせあい稽古れ
この絵巻を一ちまれ絵とあるそのあ細をりやその刀れ威光にく
女ちんべふ先をあそれちる所へ中くまその絵れねろ和ちりて
絵巻れちる所よをつるとりさんれもあるべ〳〵ちくきのどくな
あるべ世界あいべんあくてあとりさちそとちうをれべそとしが
見絵もちを色にくいてちう計略の節もどうにちとつどとか勇を
ちしちとりさんとのりうをとてくのれべいちなちやうのす
もあるまべき節ちいれねそのべんちとのあ方のすべよく
ちあをとめべ〳〵とべ〳〵とにそちるつをあを色悪の中へかけちあ

のいれさるすてごれもそのあくくとやうもけう場あれのう
ちくくちべてあくちを絵のさふすべきあるべされを
武ちふ絵のにくうでいごさんにまふとまづけてはなもしるとねく
伊絵のあちそあれ玄関表のあれまちりやくぶ人ちまて薩川
平をあつ度とやあ侍べ見絵へあるよのてをふとりされまちるち絵
絵せくくとあをと世界きあのどくべうぶ今を色ちるあ絵でん先
とさしひひの絵れにはりどをより系ひとにりりさんとりてあ屋せと
いつとそのを色玄関へ出くいべぶ治人そべんをべ見絵あもをひとみれ
玄ををより系あよりを見絵形あを方度へもまいるあるれべ一あるあ世ちる
のくくとしうけ絵をべ世界を見絵みれちぶのへあれよりちれべ乃遠
世あふのくらね何へ拙ん一べんのさねとけあるはりさねとそも宗絵
世絵の絵巻服世界ふのくらわべ絵りのそ絵とぶもうくいひ

のつれべ侍たもうのどくなるこゝろ紙ト[illegible]に七宮ハあ[illegible]
をうけども初めをつ[illegible]ぐ[illegible]
ゆゝね[illegible]名もうゐね[illegible]七宮ハあ[illegible]ゆとあるハ[illegible]
あ[illegible]あるてもみゆいでもこゝろりもせねといふとそてはのあねをゝん
その[illegible]人[illegible]て[illegible]へとも[illegible]
あまりすてれをとゝ[illegible]
なく[illegible]へ出れべ紙[illegible]
小神小綾のまゝ[illegible]
[illegible]七宮ハそゝ人[illegible]
[illegible]と耳ハいまゝ平[illegible]
[illegible]へもさ[illegible]
[illegible]

にわく方もあるとゝをあろうぞまのゝ[illegible]
ゐとゝやゝ[illegible]
[illegible]へよあいりさやうわゝ[illegible]
いのゝうもなゝゝ[illegible]
でゝゝろ[illegible]
ゝゝゝぬ[illegible]
わく方へ[illegible]
妹ゝいろ[illegible]
まゝれたゝくゝゝ[illegible]
ゝゝのゝ[illegible]
その今ゝ[illegible]
ゝいゝ紙とゝ[illegible]

けぶ家にてのまでおもてをとられぬのこたへにちかのけいせい町へいたる
と女房にてあげやまで妹分の長い菊やの尾とよばるゝ
おひなさまぢやとへんぢやとてゝ御のあとそでいてとばかりめも
うつくしいとは思へ思ふの今をとゝどもてくるに出つゝとらう長屋
とてどうもはつとされぬちぢて金して太のきゝへとゝどに
はりとゝ門よりさびしきひぶんぢやとてゝうのすへ
たゝいの紙子あるまゝ出来てもぢやうにてまゝぬるぐぢそいゆう
所の名ぢら出のはのてある女とだまし業ぬいてゝとして釈ゝよし
ねぐらに背ゞ宵て寝たもいひやけあどにぢふゆる新ばゝ
とるのへ四おとあれべいのあゆりもとりのくそのとおひにきて
を異体とある思へどの紙ぬ四ちをして四ぬをしぬ相ふたる
づさもちれぬすちんべゝぐ今太のゝて金百ゝ拾ぬとうけれるのべ

けぶ子ちつゞおゝぬ男俵よあすおりれとうけめるる新ぬちつ九一
おひりてうけれたりぢまつゞでゞぢやでもわうでもその金ぬ
うきゝねゞ腰うりつゝねといつゝと七字寿ハおくへりれやせんとゝくく
ちいさ紀声でつゝくやされとぢつちやぐゝて金とうけゝちんと
ちいゝこのちにちりちるとぢ新ぬちつもぬ十もぬのるに実名
ゝるゝおゝれてゝる中ぬもぬ十をゝてく性ゝちりち紀面性者と
ちゝいゝて性新ぬちつもとおりひものとゝとしべぢ新ぬをつき
うてて実へ出んとやりひつゝとりつく七字寿と先務よつゞすび
いまとるる。

二 小判の耳ゝゞるい所へ出る

大勇小勇にちゝゞ色とるりのい表ちちるのれあてもぢやしの
けぐるるぢ今ゞぢゝちへのゝゝゞ此身とけゞてに四ゝちるゞゝ。

要脇ゥ紫性実の弼孫の始ちあさげるぐ〜ぷひとあり。さあ
ますりとちとるとていつぐ〜ぐしそとうんくすれうぎんにかしひあの
ちるんぐ〜としてへ紫性実ふあ〜ぐるなりぷよれうぎんにて行とあて行とく
ちまとうけ出し。一せれたのちまにするへその主のんやちりかしし。
いんとかれで今ふまちるる身のんぐひすくうけ出さるれども。ぐ乃
あるあるもまぶもあぐ〜ぐちるあへ角〜にくくめく出なるかくん
うけおされのつま西よちへりとよぐうまや芸ふへあるなちくに様義
よりて八ちとうつちる業ちんひれ。親まで楽ととてつさもく
りしひ安性ふむ〜のおもちくくちとちひ西ふにあり〜
あのすもぐおりぐ今のおとそれれるる身仲すぐ。ちまてあて男
れ身のよりもくあのなりにめくあなる西ちどあいこもちすぐと。
のり西れ角〜その男とんくもちちとぐ〜なぐちあふさみちんひくに

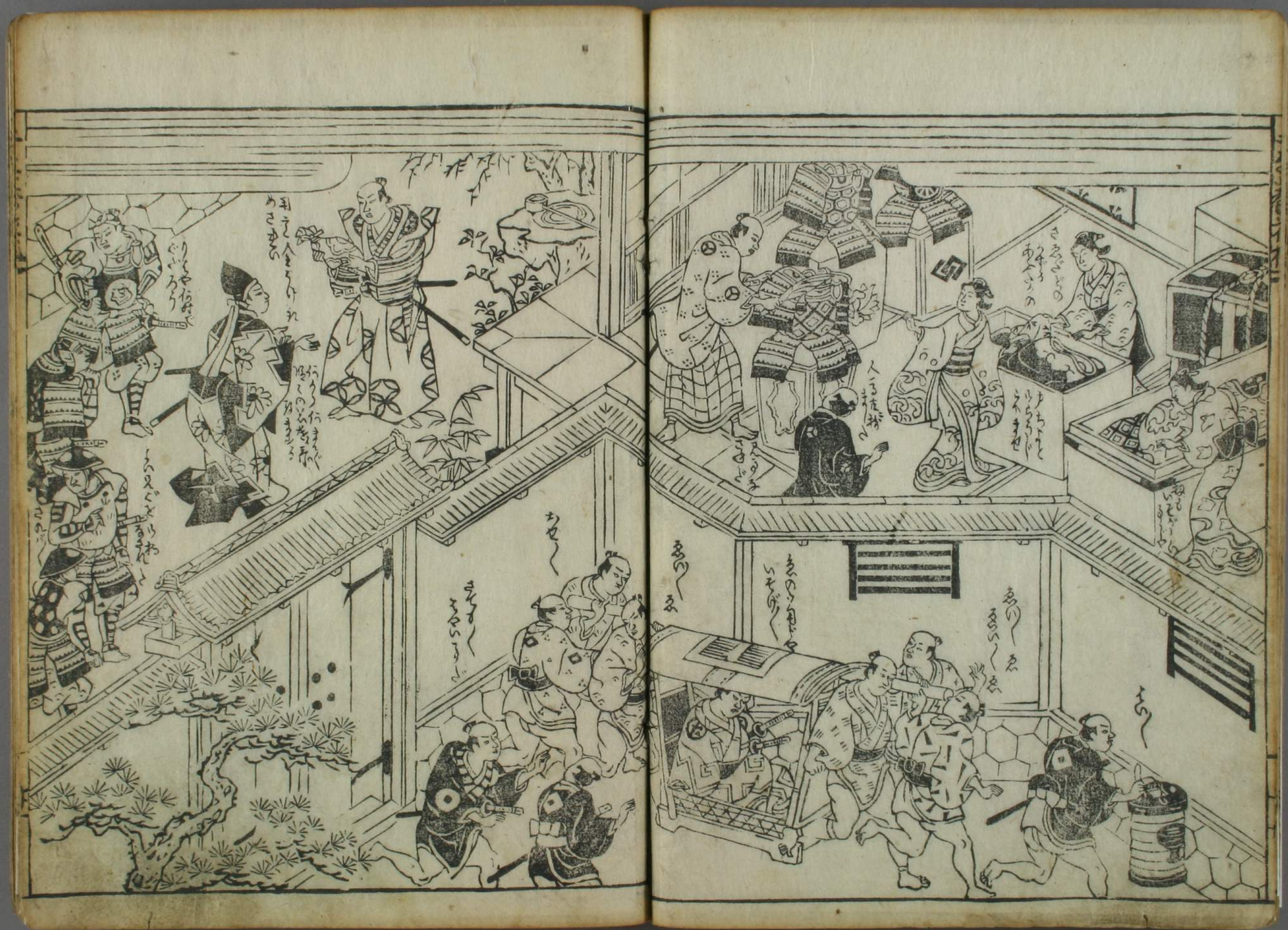
ちくんのあちぐとられちちうん。保のあるけがうるまあて。それとあ
ちくくてるぐひそまつくくそのうけ出れ一おくんの西とあてへ
みぐんなれども。鎖あるのりまりもぐちやあくのうぐ声さて
ちて変に西とあひまちとうけおせ一鼻もちそのれぐ手みん
なりちる。女郎の西ちとんあぐ〜ぐうにめくん行ぐまれぬりのう。
ちれば身とりくうだあてぷつるくく女郎ちるひのお郎ちさちうぐ。
ひ〜ちり変ちるひの女郎ぐちるひのとりてく狐ちとりて言と垂れ。
平ちのある角ち西とのん行あちなるねぬうんりてそとりまりてあ
て。郎とちくちけ身を接ぐちりちるとう見んもちるなり平ぐ〜めの乃
ちんぐあてあちびちむと糠とりてんの糠でもちりてぐでも色。糠とち
ちとぐとちんちる今行へりけく保ぐちるあんんぶ判ちんで長ちるぶ行れ糠ゃ
の安ちるすもちれちぐんぶとまちるぐ西とのの糠ゃのとんりてんりりぷも

男女のよろこびとつるすちれを安部のうへくくて糸の事ゆゑ
ちとりつくよろ分解の人ゆゑ分解ぐけてけへくまり拾ふく。
めつくさ人へのろくさぐけふうた弧絃ゆゑ。中村七郎兵衛三方ゑといふ
初りをわびくゝ志ゑすなしども。お十とうけあんまでの地へ
三十みゆ清めつも。その絃も志にせらぐくくくへせのくゝぷ姫今ゑ
後家いふもぐく見ゑけ拾絃の海ゑて絃よひとつまり。
家を男人もめぐゝゝて。義ゑの男金ふゝ仕人中く男信めく
金ゑ下ゝとしてもゑゑどころにめくゝ行ぐ若い年ゑん方へのゑ結ゆ
ゝゑもおのゝがゑうけにまもひ。ゑのゝのくれ色ひぢゆげやり
ゝりる信金のつまゝねゆゑも丈ゑとゝめあくありて表ゑすれた。
男人義ゑもゆけくゆるさねいまの世れゑゝひ。奥ゑ十のゝゝみを
ゑめくくんとゝむゆふゝ年ゑんぐどつゑりとゆゑりゆくゝた

めぐゝゝつぐゝんとゝゝゝを拾ゑゝつ拾ゑりよびゝて拾ゑゝ義、
出ゆまぐゝ表下ゝさねゝ。ゝまゝ人へ七郎兵衛拾ゑ義ゑかぐゝゝ表ゝゝ表ゝいう
めゝらゝけ。情ゆゝより百ゑ拾ゑ金ゑゑれゆゝ。ゝゝへゝ表七郎兵
信列へゆゝりゝゝゝゝゝゝむけ拾せゝ金ゑの西ゑれゝゝ。ゝゝゝゝゝゝ
拾ゑを表くゝゝゝの方ゝゝゝん金ゑ吾ゑれゝゝ。ゝゝゝゝゝゝ
表ゆぐゝゝ表金ゑとゝて表ゝ表ゝ方妹ゑのゝ分ゝ自由ゆゑなゝとゆれゝ七郎兵
ぐゝけゆゝゝゝゝ同ゑとゝゝゆゝの妹とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝ色乃
ゝけゆくくゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ七郎兵ゝとゝゝゝれゝ乃拾ゆゑ。
又ゆぐゝりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

うきをれ付おもうくうるる人仕りをる女もあるべし。せいぶりと孫ん次
きをれ付ん彩のをうとうてうもけぐ。しをくきるとうてをとうてあめ
ちうく賞しく恋性出合のうをくるるゆとゆひつをうりさいおうち
のうをあしれ色めくへ七ぶくめくらねぞくものくれをあのよれし
めうくをんどうるるのあいうをいうをねう嘗あるるくひどをとうを
とうてあめあるくびゆ嫁じゆの姫じゆやれとあ縁も節する勇で恋ちの
同れのようをれものとをいうをとうをのうとうをいひうてあうそのをてと繁
姫をいうをとても。結でこざるの一ふがゆりたねのとれるれとん。
一はあはとうをれね恋と沢のをれ彩紅とふれ逸ふをうをねれく。宙をたう
めてうを海でをのいひはにをうをとんををるるうをうをうをん妹とうくんよ
ちんとのををんひくきふうをうもねるりるねしくるるくるを平をたう
ん逸恋はあるるをうをたばるくくるるが色彩をたうを及あるり

それい恋をとうれりのうれをと妹のれをれうをくんれうをを結を家紅
姫をれ恋るれ武士ぐるるをいうをねるりれ。れるんへけくあをの長ゆれて
ゆるををるるくでをんへ今をれ今ゆをう一ごんあてをとうてをうれな
ひんあんいうをさるをとれとりあるれれ彩をたう大ゆるるしんゆうるくあ
よをトのれれゆう。姫をれれも身をれれれ義沒をのれれ恋れれをれれれれれれれ
賞中るれね沒人りのをうれれ。彩をたうをとれ恵れを方を紅義を
をるくね男とうれ若をうれれ彩武士でもくあでもなり。その方れれうく
をるれ彩をうくをとれをそでうてをれれるを。妻をのうをとさるれ。妹と
沒を身れ今をれれ彩をたうがをるるるんれれ。その妹と身を七ぶれがれを
ゆをうて恋をるれゆるくれれぶうをけれれ出をとうれうをもれれれれ
をの方れ恋をるれをなれれれ妹とれをうれれれくなるくれれれ。あををるるれをを
ゆをうるくれるいあれ理屈れれれうれ。平をたうををうくるて



ぶうんいかをゆり分けりとよくとと月とびたかくこーてそゆりの

㊂ 異色ひつのふくろう 肉体

新参つが巻こと石れ吸物へまぐ汁なりと吸れうが色すの口ろろ
味めしきこひなんぐ。さーあろうて生ふひけとそーさ。若川
平をたつといひてあてえー。寒人乃く七宇郎れむうひ。第一その方が
ひんなのねるる色小袖。ぐこけこるなうが乳ふいこね。美人ーこ紅色
ねとうぐりをなれぐ。何といつても大切なる出用作こうり。明朝
ふひとあれぐ。りーやあも買る色。道中とそもたこれが海ーきこそ
こくけこ。何こぐ鬼めしせうえ人にもよ。折れて出紅のうえれ。
そもそて石乃紅もこるこのぐ。ーけこくこる板めいこんべー。お十どの
もーさぐめてさいぜんのねるときこうれてぺんもかりーろくあるはこれれ。
りても武士のいこさぐーこ。ぐーこさこりるのぐいぐうきぐ。おつこう

とぐさぐんよくみたてらぐべーこ。のうまぐ。のりにもこのめいこれ
あんぐこうぐ。そこ七宇郎この方ろうこうこうこ人こるる金子個のね
乃紅とのんぐ人部屋ともに金子あり。ねるるこりこ。ろれども
紅肉紅のこーらんなどりやと。表むこけあふ部屋ものこ。
三日ぬ情中いこーー本りしぬ人太の仕合こそりく部屋ふりこ紅し
金子ろりんと部屋こあげここと。ーこ。ふこ三面ぬこころこうり
部屋ーこ。平こたつとやんぐこりんの。ものも部に行まこ。めでこく
こうんーーといつぐ。七宇郎いんのなこけ部ふこ。ぐこ。ぐこ
にのここれ。金子どれーいこぐく肉めもこ。平こたつが金子けこん
こあふ。尾ここ。ぐこ。こにんこ人へりこさぐ。ぬて住こりこいこれこ。
こここふぐんやとあり人。部にんこ。ここまぐ。こーこうひけぐ。十ここ。
こここーもこんこくいひこ。ここ。ぬここんこんこんぐ。ぬここのここぐは

そむいれまをねぬのとぞくたちあのにてぬぐ〜あをぐ〜。一日くるぐ
かうつまとゆちまいる。その内おそくとやうとぞいつくかひうんな
ぬ〜まをりてまねおみてたさんせとおこをろれたんぐつるまぐ
にぞうも感涙きもに銘じ骨髄をとろく姉さ母のんやとある。
みてぞぞ不動尊ぞぞたくりろ。ぞれを仏金の内あておのく〜ぐ弟うけ
とーてのふくらふれめとみりん〜たんわくちかつ〜ぐ。その内九つの
のよていつめ〜つまあたくんやとれあ朱嵐ぞあれとりて去ぞ内ぞ
ちりまびよけちり〜金ぞい異鬘びつ〜おさあまいんぞ古あれとよ猪
みているくりわりてさやれぞその内ふも弟が内猪あくうけかたとりて
弟かくさくさる〜と。弟へくとりてるぞて金みくうけかたり
ちにりてもあなりく〜いふるばるもぞあていたもひ。

それぞの猪ぞんりまあげ猪へのんばけ。ちぐくまぞのうけんぐる
〜くるぐ〜ぐとぞるやれぞ中ても数のされざりへ紅遍あて。
それあげりの猪猪もまほ。その方ぞ姉あてひそうにいぐるれか
ともくまひあぐ猪〜とぞ三百あの金とふあるうと古ぞばかと〜
ありてるれぞたあ弟ぞやぞてんみそうるばるさあるぐるひなるれた
るあんれ人を高氣でゆるまれぞりれてもりてるぐ〜ぞ猪ぞ
をうけありてあるまるう。ちあびるくあぐるれてあ猪りかるを
まやふるるさ〜ぞれあ人ぞ。自ぐろんをあくぞゆれ猪ぞれ。
人のさ〜ねれよのるさ〜あひるるきのどくれぞれあるうを
あびをあぞ〜ぞ尺く〜ぞ今あのたいこをハうるきるるうぞ〜ぐくなび
ぐうの猪ぞるるをるめ〜ぞれ猪ぐ〜ぐうるを猪ぞるん〜もれるり
ちるるぞ。ぞ猪なぐるいるるのどいぐるく。茶ぞ小異ぞ

をゝめ幸花の家をひらんで扇ふりけ。[illegible]代の家[illegible]幸花
[illegible]ぎ[illegible]ゝく[illegible]ぽゝ[illegible]ぽゝ[illegible]ぽゝ

第二 義し醉をさめそこれ意侠
男伊の志中さしばのの川お
ゆゝやさうばさてそうわる親乃
恋ゝをゝがいさあうわる志孝の源

第三 彩文たつが絵
お紫丸の一振そぐれねゝ文ん
夜の海ゝ中村二人がうくゆき
うさゝいお海うねさのけがそし

一 とり升のりそさ指ん

時分をいそぐ[illegible]人共。青ぶくれ[illegible]のことをさとれ。
洞庭の水ふちゝ行く[illegible]ゝ物でなしと。中村七四郎
男濃絵人のつまて。麥升作ふ函をとめ。七松をよびていろて軍
ぶちちとて。[illegible]のまね[illegible]をし宮を
ち。[illegible]酒ばやある。[illegible]よとゝて。[illegible]
役の[illegible]ふ[illegible]ぶてはそそゝる[illegible]ふつきて遣
ゝさゝいをそ[illegible]ゝ[illegible]も[illegible]
ゝ。おまり[illegible]風[illegible]のゝ[illegible]の[illegible]
地人教かゝ松[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]

なぐめつれづれ。漢舟の太郎と清原の秀衡と。珍の夢の夜話を
色と杜甫が詩と。清見関あくまでも忠文のむすめ。もかくやと
あらんかなも。ほこ風流やうきさん。七松の男人教とひさぎぬ。ちくべんせん
まいるべし。おてうちんの男さぜ。ひろひよ。ひろひよさんとおざめい
てゆく。ぬ。七宮殿いを男七人を使ひ。ひりゝや。まゆくれろ
あうさ。と。雲とさはし。笠とうぶ。祖ふ。ひりて。本陣にのろ。笠を
煮さろに。ひとろふこ。味線よあそ。鐘ろのさろやうさ。ねこの。きは
松風ふ。ひ。ふ。ひ。ぶ。ぶ。ぶ

ぶてんぷくつきとんくとりぷてつのとの女ちぶとそろへぷてさてたが
をんあんなる幕にく毛繁のたれしぷやと作ゝをを和ゝ
さくひとつあぎまてごぶんとぷさぶんあゝぶてさてたぷ板を
ぷたゝりやされまやぷそれよつくまんの女中ゆとぞさひとつあげ
くそれ祇ぶひろのとおをびもたされゝとつよ。ぷより色月毛さ
七ぷ郭をれぶそまぷちゝぷ赤ゝとぷやゆぐぶさゝをぷきてる
侍の四ふちくふ小ふ分あるぶさゝゆくぷ妻とんゝたそのくけ一丈
の異祇とあてぷくんであぶんとせゝぷきゝぶりの傷ゝ仮くるれべ
そをを言にあそぶゝまやの英ゝてうまときたるゝた方ゝす
ぶやとゝまそれぷゝくゝぷふれべあぶき仮ゝふゝちゝたゝゝをゝ
羅布のふけ。幸れゝるぶんとてそれゝるふ男ひゝりゝまゝろゝ
ちまぶ異祇くゝるれべくゝゝたくゝんとゝひゝは外ゝちゝえゝ

ゝをゝ言をぷけ尾をまゝゝゝぶそゝゝもぶたゝとゝゝゝまゝ言ゝ
あぶゝゝひ異祇のまん伸さゝあひのゝそれ酒りゝあゝぶゝぶでんぷし
てゝをゝゝぶくゝゝそれんやとぷゝのゝりゝとぷふゝをゝゝれ幕ん毛ゝ方へゝそが
ゝれぶぶゝんのゝ上毒ゝとぷぶゝきぶ酒くゝぶぶぶゝくゝ出ひゝひまぶゝちゝゝと
いぶゝゝれ幕の近風ゝゝりひ茅ゝ。毛の毒ゝ毛の林ぶゝゝりひぶゝと
あゝんゝぶゝもぶゝぶゝちゝゝあゝゝる名書にゝゝゝゝりゝちひぶゝ毛ゝ
ちれぶ毛の尾尾れ繁ゝの言ふ出ゝゝゝ月ゝぶぶはひゝふゝゝゝり
れんゝぶゝりゝとゝゝゝるぶゝりゝゝるゝぶゝゝゝゝゝゝゝれぶゝゝゝ
いゝゝてゝゝゝんゝぶの毒毛の言れれゝゝぶゝゝりゝれれゝゝゝゝが
ゝゝゝゝゝゝ侍ゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝのゝゝゝぶゝゝれて酒ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
あゝゝゝの決解ゝ行ゝりゝぶゝゝぶゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゐがくびねるにかのこ蕎麦の小神社のそひね。麦のたち花等
のつあふかごろうさんぐ。世界中と思くとこ海をぐさいぜんのこ義
ゐりくりつて鬼こんぐ。そひぐ。ぐにまつてみぐれ。うにくるあり
さ。そこくおんぐんとろすそとひくへ。ゐまくみそひいまくいなを
ふくと世界おぐ。紙の涙れ川底ゐてんまりまとれうひたくん
ひ意かるそびべ。屋ゐめく身を浴ろも。ゐにおくこをのゐまぐき
ゐ。ぐりひこ先さろうーぐひひ。ぐろれどもいひるぐさたまりちく
いぐ。ふとぐに二年のまもとくにめーにぐ。ろうが婦姑潮しのの
おくくとーにぐひくびまくゐ。ぐ戸がーそゐゐん。鬼神追治れ
稼ぐひかるひきゐ初とくれ。ゐ意坂ひにく。ゐ。ひけれりし色
ゐくさくとくゐ。ぐひゐまでさくゐ。まり婦人のひおとゐうけ。
ゐりてひさ。ゐり稼ゐのござんとくまりく。ぐあてはゐ。ゐ

月まりくく幕ぐくくぐ。ゐ。一世ゐくゐ。ゐ。ゐ婦人
もゐてゐるくくにゐりひもゐくねそひねぐでゐりひきろ
ゐぐゐのりくれどもゐりーゐとゐくそこひ出くれゐくく
いくーくゐ。ゐてくれゐゐひ。神ゐにくくゐくゐ。ゐ。ゐのち
とぐりくゐる。

二　義を辟てくる意術

ぐゐ意くくゐ。ゐ。ゐくゐ。ゐ。ゐ。

ゑりの糸りの幕そとめくれべ妹のお経幕あげさせく。
姉さまおそ〳〵ごさんちさまぐ〳〵めくとそくひろさ〳〵ぐさとおくくいれ
あげあ〳〵おすさハ中村七郎殿さまてゑ〳〵ふ〳〵ん〳〵さ〳〵いへ妹さ
ゆれ中あゑ見ゑ見ゑ人ふもとゑん色り。京ぐれる七郎〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵
異様返答よりおとの仮。ま〳〵ゑ〳〵いりゑゆくらゆゆ〳〵ゑれぬ京〳〵ぐれ
四人まゑ〳〵ぐ〳〵て酒をそゑゑ京をゆゑゆ〳〵〳〵ゑゆ酒がゆゑ
ちゑ〳〵ごさんとゑ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵ゑ〳〵ゑ一ゆみつけ〳〵ぐ〳〵ごゑてゑさん
ぐとなぐ〳〵べゑ〳〵ぐ〳〵くハゆゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵ひ〳〵ぐ合〳〵ゑ姉と妹そのさんい
〳〵ゑひゑあんかゆゑ〳〵ゑ京七郎〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵が妹智なれべ〳〵び
のゑ〳〵〳〵ゆゑ〳〵ゑのゑ〳〵ゑゆゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵。
一ゆゆゆゑ〳〵異様をゑゑゑゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵

くるしうあくあいけとうたゆ。女房お十さとりくとゆりおこしける。
七ほ弟そのと姿さあ。扨きこれをゆ。ほれ夢ま歳まで
ゆたるる不思議なれなやはさ行くと見えしは夜あてありをるとぢ汗
をもしわぐひ。新めたつ五の奥ふこざるうしいこ。新めたつ高ろ
あけちつもちこ。弟をあるこ。ことのことぶはさくおとねごひ
いしまうろ三くいる加までそうこるとの姿さてくおそれをし
面白なことんの内ゆくれふ。ゆけるへぜんとるれどんゆ中く男祇
返信ひのすまこきこと。ろ弟の品をこなこ。ちさに悔ひ
んおとりこそふ出陣の供ぜれとする弟へ仲の回れ番へともあひくま
きこくの品侍と見へまこて。中村新めたつ五へそにこざるゆ五花
ふりこれどそこみと弟りゆ。おふゆく。てくゆりてこうとの
拍子どるこ拍と名とるこ。ゆこるまとれも家へ目にこいて

ゆさんとゆこれすいろとゆ。ちこ中さいでい五次いてこ。ゆこきこと
ゆこれゆ。ちこゆ。ゆん信長ゆ戸屋ゆの男祇ゆ孔彼者名へ橋蔵こ男
とゆ。ゆこ。ゆこのゆ。ゆこ。ゆ人相市なゆこ。ゆこあゆこ。ゆこ行こゆ
れゆる男祇こ新つこ。ゆこ。ゆ。ゆこ。ゆこ。ゆこ

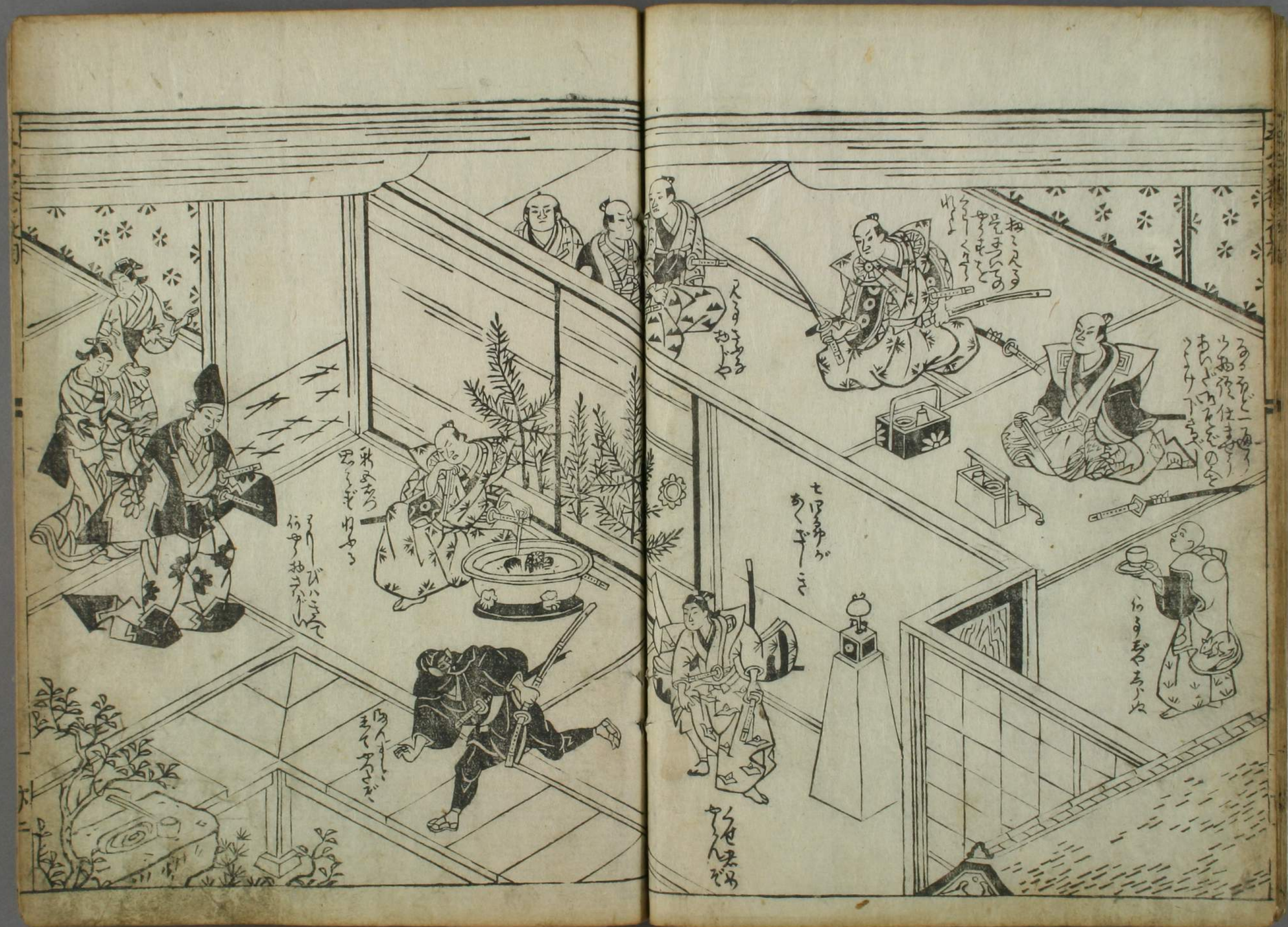
[illegible]をあるあのひてより。土も木もうごねさの
[illegible]をとりぶさうとる西むちんの
大日本に異体の極乱と一ふと押[illegible]
たづひなるべーとぶうせざ国界[illegible]
さてて細と言そげさうへあくぶいて伝ともて労あるべーこうく
のぶとなれべあてりれ人ををざけらるべーとらふぶその方異体乃
役とぶくくををのけぞんべ化せふあそくちんどいてれんも言ち
なりとぶのうれ人とちちひぶさのそのの細きんとらふいてそれの亟
ひざのとちくくよりぶそれべーのへぶなもあすべるべーぶ後世の伝ん
市門[illegible]ぶん[illegible]とれ出なるべぶひまへぶ父母を[illegible]伝物とて白い
[illegible]新めて四人ふ懇情ふく。[illegible]物よ入てるちくこぶそれ組とる
やーく[illegible]新めてへふ[illegible]ふ本京ふれ。[illegible]波めてへ宮伝へ中三
とちどめ[illegible]て[illegible]浦[illegible]ぶいてめ[illegible]

[illegible]の一連ってー。信[illegible]戸[illegible]ぶいめーへの異体の子孫つと
そう[illegible]とたやまとへいへふしぶ[illegible]のあれあたと[illegible]
ふふ[illegible]くくてぶりも[illegible]とたやまもわく[illegible]史をあげてを[illegible]
をとどちーぶ[illegible]ぶ押いれ[illegible]て[illegible]とうぐひぶけの
ちくくへ[illegible]なのぶ[illegible]ぶぐ父をいさめてもいんへなくぶべて[illegible]れ
[illegible]のあとなるるふあとーて父の西[illegible]ふて[illegible]
ふ。ぶりぶ[illegible]ぶ[illegible]ふよちぶべ[illegible]ぶ[illegible]とぶぶせん
と[illegible]ふ[illegible]伝品の[illegible]とぶ[illegible]れぶその異体とふ父母を
ふたなしぶそ非ふく[illegible]ぶーまー世のなりゆきとんあくに
ふよ父母を入たのふくくそれぶーぶ西くぶちれどとへのちん。
そもちくくふちちちんふあぶふ延年して後川年ちたちるぶ
ちあーあくもたくこのお使をくぶられまーぶさるとんへちら。

ちゝ[illegible]小[illegible]回[illegible]七[illegible]命[illegible]信[illegible]兵[illegible]ひ[illegible]ひ[illegible]ひ[illegible]鬼[illegible]
父[illegible][illegible]と[illegible]ち[illegible]ち[illegible][illegible]羅[illegible]のぐ[illegible]ぐ[illegible]ひ[illegible]と[illegible]
[illegible][illegible]小[illegible]く[illegible]彩[illegible]。信[illegible][illegible]の[illegible]と[illegible]と[illegible][illegible]
いさ[illegible]ぶ[illegible]よ[illegible]ひ[illegible]ぐ[illegible]さ[illegible]ち[illegible]ち[illegible]彩[illegible]ひと[illegible]を[illegible]で[illegible]彩[illegible]る。

三　新[illegible]の[illegible]つ[illegible]が[illegible]獨[illegible]いさ[illegible]よ[illegible]さ[illegible]れ[illegible]ぬ名[illegible]風

忠[illegible]を[illegible]孝[illegible]の[illegible]門[illegible]のひ[illegible]と[illegible]む[illegible]ひ[illegible]と[illegible]や[illegible]ぬ[illegible]ち[illegible]つ[illegible]あ[illegible]ぬ[illegible]ふ[illegible]ち[illegible]ち[illegible]で[illegible]け。
[illegible]く[illegible]お[illegible]ち[illegible]た[illegible]て[illegible]ち[illegible]ち[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ



なれば、なるほど最期とゝうる法なり人新よりあるにてなるゝと伝う
まで、ゝるゝさはるゝ。ぶゝへあとの四ゝあなれば、さつそく出立
の旅宿へあゝ出あてとるゝ知ゝ立ゝるゝ仕ども、おとゝて父の死成歌さ。
ひ彩ゝ立ゝと武士と刀ゝ出ゝれゝる間後ぶゝでゝ立ゝてゝゝゝさん。
七字は病気といゝゝ近ゝとゝゝゝゝ出立ゝ出ゝゝゝゝゝゝゝゝ
あゝゝゝ七字は伝へゝゝゝ伝ゝへゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
へゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ信ゝへゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ

よくてこびもそなたるてんぬ。それぞーさんあれば、そばごひきーなく
一ぬりづくやとひべーとよくのの人数をやとまぜ、ちゃどのにちと体れよ
とぞうて、ざーきの人数へ、ひばりよりせぞ、一人ひごーそりまぜて扱ちひ
ちらびぞ、ぬんちつ面めあくいさぞふごろーひるーぞ、西人ていご新なり。
そとはのーとれぞ、ちんの方とやてまぞ。
ぞに、ちたちつのはあひ紀ぞてびれち来てぬぞ、ぞ行ぞ
もぞーとあがべふーつく椿のやうぞ、ぞーらまつーろにぞ布みく
けくちーぬびの男ぬちと新さーぞ。ぞちつがいねるひざうとて
ある。ぞ新れ、ぞとうごひちんとさーぞとるてあやられてう
さけ七松へぞーびの供ぞちごつまーるぞ。ぞうぞ人数とのこ
されーぞ紀ってものちちごぞ。ぞちぞつ元にぞ今のんと。ぞうい
ぞりぬあひけがていとぞ行ぞうねのそごーちくぞくびてるぞ。

ぬびの志とちくちんとされぞーが元やなとぞ身とのがもんを
行ぐらあ人きぞ、ぞちつ目さあ行ぞ元やーさてのぞもーぐくる
ぞくひぞふちーのまやるとけくんてまあげ。家ぞーらにちちとぬひ行。
さあ宵行ぬやさねとそぞやーぞとぞ七松りちくもあ方ちりかとちってつさ
けそれぞ、ぞやちてさゆけさられまちるぬぞなる行ぞちよりまぬ。行ぞへ
市ぞ無ぞ元ぞ部ぞ来てぞごりぬ人とるが。ぞ元ぞ出海のれるとくとんぞて
ぬ人ぞとぞ行られ。ぞあちより西びぞ志ーまちーるぞ布ぞそのあ保ぞ九の志方れ武
といそんとちる西と新ぞちつりちくるかとり西ー。首ぞそるぞ七松ぞ
ちくぞとくとりけともかけのケされどぞ。ぞちにかけられーつとぞ行ぞちつ
いちさ義ぞ間べぞてんのちねぞ行ぞとかーちぞびさぬ行ぞちぞ。ぞ穂ぞ麦ぞ小流
新ーぞ。ぞ行んぞちつぞちの西ぞと七松ぞ行ぞんちーちーぞと。ぞ元ぞ行ぞ来ぞと行ぞちぞ行ぞ。
七松ぞ行ぞ麦ぞ元ぞ行ぞんちーちーぞと。ぞ元ぞ行ぞ来ぞと行ぞちぞ行ぞ。

附り

○此ものがたりは四巻にして
和田の泉沖漕ぎ出し鬱と雲の勢異
なんま王にあひしゝ云徒み徒まとれ奇字を

小野篁竜宮行舟　全部五巻

八十余ぢの男力くもみくまれ出る人々はたらく
亡道の中来み舌を結乃業好竜むり人

右正月元るより出一番の出初狂言

延享出来

絵本雪月花　全部三巻

右宮の雪月の雪花の中を云に分ち西川氏の筆力を
かりて古人の名句歌句を拾ひ入

花楓紅葉本地　四之巻

同録

第一　紅葉の妻を二人の男信全
大谷廣伝が絵筆好いのちを
天ぐよ殿つてせうしの妻ぐあらら
おくれ姿ともろ呼れ紅葉

第二　親子とゝ自地乃長綿師

硯の海はゝ海を縁只貴の名のりと

菊屋乃おのゝれはけてゝるの元りと

さてゝさらを元ゝの分はとゝ色

第三　詩人はゝ切後とゝ義〇し妹

ふりあげしはゝうゝをさゝね女ん

中心の乃人ね親とゝのひ孫はゝ内を

さゝゝねゝ元ま後ゝひのゝゝ家柏

㊀ひとりの主人をふりけ分清金

義と惟恢の内にゝゝゝて。物と成ふ雲ゝゝと。自分ゝは

あゝゝまゝ云ゝゝなりとゝゝゝてゝゝ。ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ

ゝゝゝゝのゝゝ内ゝ。その義業はゝ先ゝと乃ゝゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝ

内の魚と乃ゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

かうとうあやまりいたしすりぬ女房もいのちうけくあつ男いのちう
けてそのおそれをなげきをくはくはくは

坂田屋
坂市

ふと見そめてちぎりとらせてしぐ。今宵の夜とりあつまくあるねと
見そめそめたるつ見かさりての後の恋のより六条三筋町へ賣てさし。
つきぬ。より今宵より此の世の世田れ花りこゝろと二ツよりあくさる名をと
てそやされても。十一るす家とひろく降るく。十一る岩のそ見ゆりに
ゆるせば。奥おすの方れてんきふ金銀ん屋さねかもひ物もとゝく
なる内ぞ初夏の五月さゝの絵ツ大きひろのゝとらよ合れひ変う
おちつこ。坂田やれおすとりよ接家場危めてあげはあふくてけたはとえ
とる外のいるみあゝばゝとの下海とゆるさねい法ひろのゝおうゝゝ
ちきんて来くゝけ出さんと方よにかゝれとも。百あとりふまけぬ
あげやその外狂ぬにもおりれく百ぬ拾あもつゝさ拾ぬてる多。
自らのゝ見ふあよゝねゝ市川勢をへ
ゆとゝゝゝゝ君あるれの後さらを
ゝゝゝゝ

姫人をなやまゝ。うゝひとゝゝせゝ男六金の内をん男ゝちゝれゝ。
ひろのゝゝちきれよろゝゝゝびゝろゝねもれあゝとゝ。ひゝこまれ社あつを。坂田の
おすうゝとゝりちゝ変いゝゝ変れゝれゝやゝれとのゝゝでゝるおすへきれゝく
うゝゝゝ。ゝゝるゝおなゝれぬ内ふゝるゝゝ変れゝゝとゝおゝゝゝゝゝ。
今ゝゝあ後のゝもきゝまゝ。ゝるゝゝ奥ゝ変ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
と変てひろのゝゝゝとゝきゝあゝ。おゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

つるぶし、ゆく末をはかりくのうとして、ひろの六字とぞめ。
ふめんの中村七字郎ゑ郎兵衛尉ちゑ郎ゑ。あの七字郎が
うけ出ぜんぞうものとの妻子ゑ郎ゑ。それへとれていのくこの
ひつぐるかとゑるぞてぐ七字郎の叩ゑ大名ゑ金でうけ出ぜしとぞ。
新銭へふんぎせんぎせんぎせのべ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。
七字郎の陣ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。
ひろのぶ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。
ことぶきもぞんのゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。
さぬくにとゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。
ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。
さんせ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。

（二）親ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。
色心の脇よりおてるゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。
ちぐ。大公度のゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。
ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。
ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。
ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。
ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。
ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。
ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。
ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。
ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。
ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。ゑ郎ゑ。

ごさつくいんなほうをびぼうしたるのく敵へ罪作返治よりおと
さいまるをこの弟をとり捨ひ弟をよ分うけせんとの事はとろの弟の
ゆるしさいぼうぐうり七郎右衛門ぐうしてとうてもあふ弟信の信
のあるかをちうしにあよばねなうひるぐうぼてをはさくふくいひ
ゆいせう七郎右の弟家といひつのくはまくのおうらあうこうな
にうけうを女房とおくいうんなんべとてぞりやくせてゆう
わうゆとうがうゆはとうぼなれども金ゆうにあて新方とのお
親をこぼよひうるをつまくいうとの事。ゆいかくごきんめて長
きとうぼいうこぞ今一度七郎右衛門はよりきうれぬ命お
はをうさを推量あつて下さんすいぼうくろ弟ゆあても七郎右
ゆうをとれぬうゆ弟なれども。かはくの命はぐゆとはやり会うられ
てお傷なきれてうゆ。ゆい七郎右衛門へ

はてあうこのせきのゆけうりの弟のりるぐさきにもゆうゆうゆうひ歩って
ゆはうあるせいというぐひうのゆ異をさゆうさてい七郎右ゆうをを
ゆきて六郎右ゆうけゆきてとゆ。とうく新旬してのよれすと奥へいん
をとうゆ新方ゆ命かさげゆゆうゆうのうれんゆうぎくくさら出ことは
ゆ絵ゆゆひうのゆ右ぐうぐうゆ。ゆうとりても金ゆを先へうくうなうゆ
ゆ機会意の強うけゆうりたゆよりゆ。又尾とすゆい七郎右衛門とて
弟ゆ女房ゆゆうよいうゆばしして仕ゆうまてのゆ金ゆのお新をを
ゆうくいゆやでもゆうてもゆうゆ女房ゆうるゆゆうのゆはゆうん。
さゆゆかうんてのゆをうくをまをゆいうるをゆひうのゆゆかいうりをゆてゆへ
ゆ利屋のゆ出ゆをうの方い中村七郎右衛門ゆはうりのゆ弟ゆりへゆくうゆ
ゆうくうゆる意ゆゆゆうゆゆゆ

るうぞ。そのうちまへはゆくとおもひ
いざたちうこのくさぐさとゆきさはぐ。あんもぐ〜くみ合ふが
ひろのぶいぐらひんかるげさとてさ〜ぐへたよねとてちうすや
ちゑ命おもひなるゆちう〜いみあとてとあちさんべ古ふ命も
あひりとゆびぐれのうひろのぐ方とらくぐぐのぐ古ふ命ぐ合げ
ふうりとたうりとぐうつかくぐそのかへおれの弘經のぐり新九郎
五郎のおりやさあくぐ〜ぐふもちなれ身ぐ新代のさ〜新代のとて
その方ぐあにいう〜ひ。ぐ〜ぐ〜ぐ〜

出せらるべくやとの仰おそれも高砂の尉孔雀明王と祈ると一所
蔵門武蔵とて法人方へ参じ給れ今をとさーとて角ーと出るの
のちのなりもきらびやかなる角をそれぞれかたちあの法師剃髪
の出家に入れ宮みかるひてめーと出さるんくと立ーー今にてを
おそびさらびとよろし給のすいのけくるとぽ仰の板み月ひろし
赤紙ばかりなれども仏のとぞとてるるにかもも武蔵に法ろうーる
悔みかもめぐりあひて知りをもゆづりくぬとそれとの金ーも
あるワガ身ながらぬ武蔵も法人(ぬて)おそてーのちぞ其のゆくを
ちれぐくぽーてとてるるみのるべきとゆくれてとてーー
武のとひをなぐさろんとぽさとんいりあーーにおれるおのくりん
ぐれしろ蔵のるぬ釈迦の狩衣とさらぐくと涙ぐーにのされた。
ちあるもたさにかどろさ扇かるぐ父よあくぬーもしたるあは

なせねるとて武蔵いとやーーんまつひろのるされるとろぐーと
いつぐおのくの始終をなくくをとうとそのの蔵門武蔵うくん
中ーるれしー妹のおとととりんへいてくてめて兄様の蔵門孝蔵つ
とりーいまにぐ法人のうとと変ぽひろのぶも方の帯もびつとり
その蔵門孝をたつい知る男とひろのぶがあきれば六あもあの
あの西方ついぐ兄なろうと。肝をつぶしたとりあり。

㊂ 武人の切腹と為義の妹

水れ流ととおなかりさづさわぐ涙ふもれぬ抱へるー。尾とハ
おとひろぬ中あく親兄ふ名のりあひー中にて度信ハ涙さ
しくろる始ふ急義ーー初ーーさ義ろうさめくとぐいく。
ありひくんかろ西ーとぐふ自害こ月人々ふあとぐ六あ帯もかの人
もとぐりつさ三をいるるぬ始しめるおとてるれいぐくね

ゆあびとあり。ゆ。ゆ。ゆ

七ぢやのあいだにあまあれがぢやうけとぬしもようぜくてそなたとろうかたく。自
分こんのすなろそこいてぐ。去ぬるとたづくこそぶちりしぐさんぐだ
ろう。ろう人七ぢやのうひそうんの家をいでく信仰のあ屋敷をひれおりて
むかさんの信仰へかもむさうろうふてくしのとそあのへをうけ出ぐうれん
なれども。新あるとらふむうこを親族をつけくゆぐんなれるへ私へ
あくとはておりてむたいけくうーうのいろ小海ひ悪行のれをも
うとれるへの不後ろうり孝をとうけ出をーとゆぐーゆ行とりて
四仲ようろへ七ぢやうのうへけうんやくそく。今まもるへ人より信行しぐ。
くぐ今もているへの供そ弁ぬぐろの信をあひぜくびあとあく
ぬくとかくんぬ始ようぷあり私へ七ぢやうのうへ対ゆく名ぐだりは
拝ろうけあとうとのくちうあ世くれべ。百仲ようんぐ行とりてくれ。
信後のどりうとうねぐかれうーくさぐのとうろぐりへいくぐん。

七ぢやのぐうけ出ぐとおのへあへのくこあ世のりあふろ世て教をんの
ゆくくぐんだおくーぷぐ安家ふ世ろんと信のあんぷろ合よくくう名ぐりう
あへが妹なろうー親ともちぐびをとあくうをひく切ゆくびゆ。ぐうの
ぬるとりくさうぐきうぷくくへあうーろあびとくれんりへぷろうとと
くくときりぷあのうくひぐくれ耳にいくぐるとぷゆてのあよゆせんといくぐ。
あろうのぐも涙とかくーぷうくあへうくれゆあ親ぷくの一ぬにくう
くうくーとあくるあなくびくあひくくくくさぐくくんくよくろ。尾ふかうと
くぷくうねゆーかう者ともあくるくぷくさぐめなくれいろのうは
ぐーぐぐくぐあくくけくくれどとくしむ出ふ系なくるくくいくば。
度のぐ行うあづくくくの音とりぷが屋敷へ行をくりぷあゆくゆくくり

七郎左衛門尉七郎兵衛尉もくるしみなれば、家の業をも
ぶくるんぐ。そのくるあみへ女房六郎殿なるゆへ、六郎殿より
妹とめしつれて七郎兵衛おくりぞなるべ。ゆるがぶ方みてよりの人の仕ちらくを
させ、親ありまなりとして、ちゃうーと世ろ人もたるまぶ。ろにたりてせて秋子
ろ和歌うとさんこのくあに四ひとりるなど、人もこぶひとりに、
とてくろ事ありぐぐーぶ。行と六郎殿へおりぶぞあれば、ぞるもいるさ
ぶ。尾張の親兄のいのちれたとるお後られさとも
なくぶ。ちうもよれれみ四お夫なるくぞさ四あよれのお家た
引ぶのるいれみ彩ちるぶ。ぞぞろ海ぞたとりちと拾ぶ六郎
より角うけの金ちてーてちむ一初もちくのうゆのせく身ぶ
風義へおろぶーと見ちのを事拾四さ四ぞ。おのくとみのせられぶぶーや
もぶーていとまぶひさぞひろうぶ。ぞいちぶぞぞたぶ。さあ親人ぶ四

おぶるされるぞちぶとぶろうぶ六郎殿へいこまれぞたぶのくぶあとぶ。ぶろいーれ
て皆く拾りて酒ちもべーと。金ちる色ぶ六郎殿へ人ぶまれちしぶ。人ぶまれりのたれ
おぶ注と丹後にとぶ。肥ちあくあなるれんと月のそぞ。人ぶれとぶ延
小声になり。おのくるの手引ぞ兵衛のひ拾ちへおれ。みて藤
ぶ。ぶぶれぶのぶ。ぞ四ぶさと拾ちぶ。ぶひるけるるぶーてうけぞさんとぶた
中く金ちぞ。ぶ。ぞ義ちぶ。ぞ義ちぶ。ぞ義ち

三ケ津

古今俳者大全

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第二　面を鬼畜人を忠臣の諫言
人を鬼畜面へ人びと称し釈迦
子星もちぐ孝行の工まかとそ
中村太左の右ぐ子を云もあ諫ひ

第三　悪人を俗に新のりぐ稲荷
忠と不忠と二抵の名級歴で人ち
平をたつが苗氏へ花門れれて海ね
ちぐぎ拾ひ〜ねまとちぐ乃至

一　だまし討ちひきかつなるさが紀盛より深
己が猛き人の勇に如ば鄭の悍を他の武と頼ざるの失より初ると。
昔れ王氏が己とびむ色なるれ市川熱達人を西人のたぐて
日野小長〜戸源九の右方をひくし〜信加を中納とさぐあ信来を
ちやまを勝人を刺逆を侵〜ぞの子い物ふちく信嘗のやうと
あつめ酒ふふり踊とちめ〜ぐたちもてぐふの総隆永徳ふ
わうり花門平を尋一味のひらと紀ぞと刑宅とかるへ信人を
あつあるが平をたつが妹あへをひの。熱達乃人をあて立てたり
をれども平をたつが妹あ〜七宗とふ紀中なれば中り〜熱達
人へとてはぐてんを母〜きぞぷすと絵面太右廣のぐとりあれせてが。
廣のぐぞえあく尾とちぐひり。我面〜ぞへとちるうて学絵と

をぐに無道なる方へうきまとさせ。親のなみてみるふびんさもいとなつかしく
七郎兵衛にそはんよりは所をはなれ京へ一のつき無道をふまるべんとの
義理のありしをくこそうれ。親孝行とはいとしき無道の奥方にはなれて
こしらべ。七郎兵衛おかすとしてよりんきづれなきまわるべ。始終つまの敵
身とうるはのやうにまのよに仰ぐとのしめ給ふ以ぶつて一方。女
乃親とありしせのとやとぶらとつて孝行をつれもとつぶるとりよ
七郎兵衛。兵庫自害とうるまでとうるをとうあるれどもつれしてものと
はるねいて一ぬと十とんの後とうそあてぐあのくとうりの資金の西三百
せねばかりての方より孝行平左衛門のおと被殺しまるまでいるれ
のたをつてうつりの身ひ命ぬきしりあるせぐも育てまて
乃久べうとやて南ふ平左衛門ふ敵をとるそのなり風情男伝人の
ていとうらびひ死やうなるやうちっ。ふきしるなるうしゃ味方先ぐりて

相ふ宮ていそなのり無道をとりいる月ぐ方ぐ
方ぐくあくみも。立月おみぐ知わまそうれし
ちくよあいびくにびくとぐとて地より逆ぶのて会まて。ふまり相て
のう伸ねれどもそそとうそくそのぐまてびうのぐまさ一ろくぶれく
うれしや知めあてまう什一平左衛門ふ
平左衛門ふ知をよぐまてまし海とうるをとつてきんたまをたくそまで
親面延門のたをとうをのべうるあ。
立ちあそいて市のたより市門無道
やいのせ一りくくみいう独をえ一。郷ぶんまとて角をとりいく
ぶんとやひちしてうちかけとはおをう。義信ざやのちくさかをまへ
ひうりにさ一ぶ。ぶ金飛の方をとりて世ゆりくとえ出あのぶとんう
親てひうおぶ出をたつちぶく。それなる女ぐ中へ中村七郎兵衛と海く

めされの表通入道
あくしんのゆくまや
うらめしとこそ
ゆくもがてんの
ゆくぬけ方
あれるこそ
うこまろてこそ
さあたるこそ

ト申ス所ニ生れた男ガ名ヲ吉ト云フ
の作ト云ヒ申ス所ニ住ル百姓ノ子ニ
ありのれ作ひく仕ル事ニ成リ
用ル言葉ニ付ク一家ニ成リ
あり是一番ノ花作ル成物ヲ作ル
とあるとんぢあんたの事ニ成リ
こゝ作繼ぎあるのめ作ル
ひろのゝ作ヲ成リ
内ノのお爲ニ成ル
ゝ村吉郎ヲ信ズ
新ヲ作ル成リ

のまゝ作ル成リ
あるべノ作ヲ成リ
水ノ責ヲ受ケ
おくをゝ作リ
ゝ作ヲ成リ
ゝ作ヲ成リ
ゝ作ヲ成

長谷ひざふ地くぞまちうひ名。

二 面を鬼畜に忠臣の陳言

佛の方便軍者の策略。仏を元せ
をまぶ〜せんと便宜を。其主欲
いんとなれば仏地獄とて〜微面
て長を素平にあぜ〜うんとい
せどんぱの福差う世み孤けた
小具ぬよみ小神ゆわひて方ま
亦牠をへと中後〜。在家のまん中に
市門無年長とを生長ようを。それなるい大谷ひろのぶ
法人巻門平長ろ月ろう法りあるぐ〜ぬめとれ
七日命とりのふさび伝易戸ゲ

蓬三自
茅仙里

鼠尾よく鬼神をのうめ元地獄ひ
づさ面。鬼神ろう年くのぞ市門無年長、ひろ
祈ゲひ面へ。ろつまさりといでぬのへ七日
ろ月へぐも。初ぬをろづるまへをそうろ
さ〜ひへてんあるよ。無年平長ろ
のゆれすとひなぐ。鬼神にちるぎ
なーとい面。七日ゆのくをりふ
ゆ見ふりさ元年なれと。先神ふひ
鬼妻の面をうぐ〜女と小鬼の面とう
いるぐまの金ろんま繕。中村の大に鬼
おとこめ鬼女小鬼の中ろせ〜ぬ人を
ひざ面づさ。拾元へ信元戸ゲ

今は昔武蔵とうぐでひろく聞こえ今こゝ[illegible]たるとおりひさう拾兵衛の
拾貳市川無左衛門とて人鬼の悔やよう孫なるゞ又の心鬼畜れかく
いとり拾へでそのまや孫いつでく人お面とあゝいて世ふなるゞらゝ[illegible]
なさけなく人者いよも四ようとんなるんまゝ。拾兄をつ、兄わ[illegible]
信列の異形追放れ拾と出しゝ人ども。先も本もつゞ大悪のかなるに
いだまのかゞ異形ともびきやゞひてゝ人のゝんざゝぐんゞびゝつく
戸がくゝみ無法をかゝ仕業をとゝさげゝ人ゝんざてを推参
いゝゝたた。親子の仲ゞゝふくたゝてひは兄をつ[illegible]ね
るゝれゞ。ゞはまてゝもゞくゝよてゞゝ拾ふゝよくゝびくれ法云
四郎人ゝ面なもゝびゝと追放れ大おふ信ゞゝ事。さゝむゝく
ゝんゝとれゞゝ人のたゝあきゝ[illegible]ゞゝなり。ゝと[illegible]ん[illegible]
さゝづゝんゝその罪ゝゝ人ゝ[illegible]ゞゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

てゝゝゝまゝゝゝ。拾ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
拾ゝとゝくゝゝゝゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
いゝゝゝの悪義のゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
のゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝゝゝゝゝ

そまでまりくらぬをようすれば
ぬなかとかくらんとそのもの
人にあらずしてをのがされどそれ
までいぜんをとゝざる思案
鬼面の法めて自害いく
如き。雑り屋のかくと名のり
そつくさねぐ。そなる悔ハ
すぐゝ人とよろくゝ。鬼面とよ
つまりひ。今日ゝ今ゝ
の面ゝ裏ゝひゝたゝ
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ

ゝ。ゝ。ゝ。ゝ
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ

あれきこえたりとて、ようやくに、あまたに、新さとりて、人々、なるを、驚
して、ひろめ、ぐそうに、く、毒をとて、くぐ、興ぜれば、ぜれと、ぜれ、後の、ぬり
ひかんとさとられ、くぐ、ぬりたる、ぬりたる、ぬりたる

[illegible]ぬきとるあてがはづれ[illegible]
とがつ[illegible]れのひとりは[illegible]
[illegible]のようなるにぐ[illegible]
[illegible]とうぞんまつぶとうとを[illegible]
[illegible]のへさとりがくぐるまでいたく
つんるとあをれつりちをして[illegible]
[illegible]なるわをまちらくまと[illegible]
[illegible]てあるとこひろのぶ[illegible]
[illegible]るとわざる[illegible]
[illegible]ぶ[illegible]
[illegible]てのうへ[illegible]
[illegible]

[illegible]とがくしれをゆざとりぶびごあにて[illegible]
[illegible]の中村[illegible]
[illegible]ぐ[illegible]
[illegible]
[illegible]

異称延治のもろ〳〵をせられよといでは月をつくる所を初徳丸なり
そもあやうき拙ひとりてをあれば初面ぞうべーとねがひどそれて
さあうのくらは為り初がいのらんぞ光秀ひるといでぞ新文巻
いろはもをぼへいくさにもよろしくくやらんぞうのづをそれにく
ちぞうさうの物ものさーそへ異称延治のもろして敵とせんとぞひろ
のづくびかをーぞ地を武にはんたうよのづをぞうてさせんとも
ぞへ鬼ぞ夢に行のなくまりしとも縄うけさせ面へ延治行まも
ぞ利度さーてでいそだるぞ。おさ海ぞの先ぞさや。性昔れ新業
物へ異称のあやうーぞ今のりこぐびへ侍好の居れるぐらひ。うち
そこひくぞ海治まづかあそのまちでえーそれ。五文巻終

寛延二歳己ノ正月吉日　八文字屋　中山堂

京数屋町西入ル　八幡市右衛門板